

一人一人が運動の楽しさや喜びを味わい、
進んで運動に親しむ児童の育成
～多領域での「笑顔」あふれる授業づくりを通して～

府中市立旭小学校

全児童生徒数	173名 (男子82名 女子91名)
全クラス数	9クラス(特別支援級3クラス)
TEL	(0847) 45-5393

1 課題と目的

これまで、児童の体力の向上や児童同士のよりよい関係づくりを目指して、体育科の授業改善を行ってきた。児童一人一人が運動の楽しさや喜びを味わい、主体的に運動に親しめるようにするために、課題発見・解決的な学習を行えるようにするとともに、運動の特性を明らかにし、技能の分析をした上で、個別最適な学びが充実するようにした。

2 主な取組の内容

(1) 単元指導計画の工夫

- ・学びを広げるための問い(課題)の設定
- ・魅力的な教材の開発
- ・学習ツールの効果的な活用(デジタル機器の活用を含む)

(2) 「個別最適な学び」のための工夫

- ・運動の場や規則・ルール工夫
- ・言葉かけの工夫

3 取組で工夫したところ

①学びを広げ深めるための「問い(課題)の設定」

単元全体や各時間に身に付けさせたい資質・能力を明確にして、どのように問えば学びが広がるのか、児童の思考を意識しながら問い(課題)を設定した。

②ねらいが明確な「ウォーミングアップの開発」

主運動につながるウォーミングアップを精選し、音楽と合わせてパッケージ化することで、活動や時間の見通しをもてるようにした。

③目的に応じて使う「学習ツール」

全体やグループで情報共有や作戦を立てる際には「ホワイトボード」、自らの思考の変化や広がりを知ることができるようにするために単元を通して使用する「一枚物の学習カード」など、児童実態に合わせて思考を視覚的に残して共有できるようにした。

④誰もが運動に慣れ親しめるような「運動の場、教材・教具の工夫」

運動特性を明らかにしたうえで、運動が苦手な児童でも運動に親しめるように、ラインの長さや角度、使用する用具の種類や大きさ、硬さ、配置、ゲームの規則、ルール設定などにこだわって教材を工夫した。

⑤実際にやってみることで見付ける「校内研修」

研究授業前後の検討会では、実技研修を積極的に取り入れた。教師が実際にやってみることで、運動特性の理解やつまずきの予想、教師の専門的な言葉かけ等を充実させることができた。

4 成果と今後の課題

今年度は、共生社会を目指して3年生と6年生の異学年体育も行うことで、多様な関わりの機会も充実させることができた。

「体育の授業が楽しい」と回答した児童の割合は、前期90.1%→後期92.1%、「運動や遊びが好き」の質問では、前期93.8%→後期93.9%であった。

今後も、体力や技能を高めることだけを目標にするのではなく、一人一人が運動の楽しさや喜びを味わえるような、運動の場、教材・教具の工夫やねらいを明確にした授業づくりを行っていきたい。



ウォーミングアップの開発

主運動につながるウォーミングアップを設定した。



運動の場の工夫(走り幅跳び)

マットやビニール袋を使用し、スライディング走り幅跳びを行った。



学習ツール

作戦ボードを用いて、チームの課題や作戦を視覚化した。